

平成29年度 第3回北九州市人と動物の共生社会推進懇話会

議事録概要

- 1 開催日時：平成30年3月29日（木） 13：30～15：30
- 2 開催場所：総合保健福祉センター6階 61会議室
- 3 出席者：
 - (1) 学識経験者：石川会員、横山会員、馬場会員
 - (2) 獣医師会：西間会員
 - (3) 動物愛護団体：西原会員、中山会員、光武会員
 - (4) 市民：中西会員、西井会員、原田会員、松永会員、宮前会員
 - (5) 助言者：村江 史年氏（北九州市立大学特任講師）
 - (6) 行政：[事務局]
保健福祉局保健衛生課
[オブザーバー]
保健福祉局動物愛護センター
- 4 議題
災害時におけるペット対策について
- 5 議事（概要）
 - (1) 開会
事務局 開会の挨拶
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 助言者出席について
石川会員の要請により、災害対策に詳しい村江史年氏が助言者として出席した。
 - (4) 会員による意見交換等

座長（石川）

本日の議題は、「災害時におけるペット対策について」の1点となる。議事のスムーズな進行にご協力いただきたい。

それでは、まず事務局から説明をお願いします。

災害時のペット対策について

事務局 <資料を用いて説明>

座長

災害時におけるペット対策について、市の体制や現在の取り組み、課題について説明があった。この説明を含め、災害時におけるペット対策について意見や質問をお願いする。

～災害時における動物の収容頭数について～

学識経験者（横山）

現時点での北九州市で保護可能な頭数を動物の種類を含めて教えていただきたい。

動物愛護センター

保護対象は犬と猫になるが、市単独での保護可能頭数はそれほど多くはない。動物愛護センターの最大収容可能頭数は、犬が110頭、猫が133頭となっているが、3月時点で犬を70頭、猫を30頭収容している。残りの頭数を保護することは可能だが、過密状態になるといろいろな病気が起こるので、あくまで最大収容頭数でしかない。そのため、北九州市獣医師会と協定を結んで、さらに一時預かり可能な頭数を確保していきたいと思っている。

獣医師会（西間）

以前獣医師会の会員に、大規模ではなくもう少し小さな規模の震災を想定して、どれ位の頭数が預かれるかアンケートを取ったが、犬猫合わせて、最大200頭位だろうと考えている。県外や県境にいる動物については、福岡県や九州地区獣医師会連合会でお互いにバックアップするようになっている。地震の場合は、病院自体がどれだけの被害を受けたかも影響する。

また、九州地区獣医師会連合会と九州動物福祉協会で大分の九重に恒久的な施設で、災害時動物救援センターを作っている。そこの最大収容頭数が300頭。ここは敷地面積が9,000坪あり、フェンスを全部張って整備しているので、一時的な施設ではなく日本で初めての恒久的な施設となっている。

獣医師会では犬猫についての災害対策は経験を踏まえて把握しているが、到津の森公園にいる猛獣に対して獣医師会は手が出せないが、地震などが起こった場合、市では予防策を取っているのか。市に麻酔銃はないと思うので、大型の猛獣が逃亡する危険がある場合の対策があれば教えていただきたい。

動物愛護センター

到津の森公園は建設局が指定管理者に任せているため、その対策については動物愛護センターでは把握していない。しかし、いろんなマニュアルを整備しているところで、災害時の逸走防止などの規定はされていると思うので、今後協議していきたい。

～災害対策に関する周知について～

学識経験者（横山）

今年度は災害対策をテーマにした動物愛護フェスティバルの開催や行政職員が災害対応

について勉強をしていると伺ったが、一般市民向けにはどのような周知を行っているか。

動物愛護センター

動物愛護センターでは、犬のしつけ方教室や犬猫がほしい方に譲渡前の適正飼育講習会を行っている。その中で、環境省が作成している災害対策のパンフレット等を使って周知を行っている。犬猫に関わる方には周知をしているが、動物を飼わない方にはまだ周知ができていない。

動物愛護団体（西原）

一般市民に向けた周知ということで、自分はアニマルケースワーカー協会という NPO をしており、その中で防災を入れたセミナーをするようにずっと考えていたが、今回福岡県と協力体制をとるようにして県と一緒に進めていく予定である。一般向けの防災に対するセミナーをしていくので北九州市も協力をしてほしい。

～被災地での状況について～

助言者（村江）

熊本地震の被災地に入った時に、避難所に入らずに車で避難する人が多かった。そういった方の中にはペットの事が気になって避難所には入らないという方もいた。もちろんペットの健康状態も気にしないとイケないし、今回の熊本地震では直接地震で亡くなった方よりも震災関連死で亡くなった方が多かった。そうすると、車中泊という形ではない避難の方がリスクを避けられるので、それを考えるとペット対策も考えていかなければいけない。

学識経験者（横山）

熊本や東北の避難所で、動物が苦手な人やアレルギーを持っている方が、生命の危機にさらされている時に、ペットに対する避難者の抵抗を感じた経験があれば教えてほしい。

助言者（村江）

もめている現場は見たことはないが、益城の総合体育館の避難所では個人的にはペットとの避難が成功した事例だと思うが、初期段階ではペットを連れてきた方に対する避難者からの苦情が出ていたと聞いている。

動物愛護団体（光武）

私は実際熊本の現場には行っていないが、SNS 等でペットの同行避難に関して自治体もしくは地元の愛護団体が設置したペットの避難場所について、県外から支援にきた動物愛護団体が「やり方がダメだ」ということで指導をしようとして、どちらが主導権を取るかもめごとが起きたと聞いている。災害時にどこがリーダーシップを取ってどのようにしていけばいいのか。

動物愛護団体（西原）

自分も十何回と熊本に入り、支援物資も 17 トン持って行き、現場の推進協議会の方と連携して現場を見てきたが、地元で活動している方が主導を取って動かないと、他からいろんな人が入ってきてとても迷惑したというのが現場の声。現場でみんなの事を分かるのは地元の方なので、そういう動きを北九州市も考えていかなければいけない。その中で北九州市獣医師会や推進協議会、地元で頑張っている愛護団体が一致団結して活動していく事が一番望ましい形だと思う。

座長

災害時には混乱が起き、最初に誰が道筋を立てるかということが大事になるが、市では

どのように考えているか。

保健衛生課

昨年避難所運営マニュアルの中にペットへの対応が入ったばかりで、実際去年避難所が開設された時に、ペットの同行避難がなかなか受け入れられていなかったのが現状である。今回の懇話会での意見をいただいて、行政の中でもペット避難の話を危機管理室や担当部署と話をし、当課でも整理していきたい。

助言者（村江）

北九州市では昨年避難所運営マニュアルを新しく作成したことが進歩だと思うが、地域住民が主体となってというところを市は大事にしている、他の都市もそうだが、そうなった時に日常と災害は鏡の状態だと思う。災害が起きた時は日頃の課題がより鮮明にピックアップされてくる。例えば独居老人が日頃から困っているのに災害時により鮮明になる。日頃からの地域の取組みが災害時に出てくるとすると、日頃からの地域でのペットの存在意義に核があると思う。地域の中でペット避難を考えた時に、普段糞の放置などをしていると、ペットに対する意識が地域の中で低く蔑まれて見られ、避難所を開設するとなった時にペットに対する意識が悪い方向に働いてしまう。そうではなく、いい事例として、わんわんパトロールをしている方と話す機会があったが、散歩時にペットが飼主と共に地域の見回りを行い、防犯に協力しているという見せ方をしておけば、地域の中でペットに対する思いや認知が育まれ、いざ避難所を地域住民主体で考えた時にペットに対する避難についても考えるようになるのではないかと思う。

座長

日頃からペットやペットを飼っている方に対する関心やお互いに関心を持ち合う意識が大事になってくると思う。

市民（中西）

婦人会の活動で、被災地に慰問会ということで入った。2月には県主催の女性のための災害時対応力向上講座にも参加して、HUG（避難所運営ゲーム）という演習を行った。体育館の中で、マイクで「介護対象の方がみえました」、「一人暮らしの方がみえました」、「小さなお子さん連れの方がみえました」、「ポータブルトイレが40人分入りました」、など状況が説明され、それに対応するのにパニックになった。今日の避難所開設の資料を見て、演習前に見ておけばよかったと思っているところだが、事前に整理されていても、災害に直面した時にはパニックに陥る。女性がリーダーシップを取るためのということで勉強会を行ったが、そこには自治会、社協、専門家の方がいる中でどれだけリーダーシップを取れるのかと思った。その日は益城の吉村さんもいらして、経歴からしてリーダーシップを取れる方だからそこまでできたのだろうと痛感した。その中でペット対応が一番混乱を招いた。小さい子供さんがいる中で、盲導犬を連れている方、ペットのみならず、高級な金魚を連れている方までいて、本当に混乱していた。3日が勝負と言われているが、1週間、1ヶ月と時間が経てば絵がかけると思うが、災害直後はどういうふうに対応すればいいかは、いくら勉強しても追いつかない。日頃から訓練と言われるが、訓練では実感をあまり伴わない。そういうことで会議を持つたびに意見交換をやっている。

獣医師会（西間）

震災の規模によって対応は変わると思うが、大きな震災では行政は72時間は人命救助に全力を尽くすため、その間動物関係を誰が主導権を取ってやっていくか、その辺を決め

ておかないと、行政からの指揮系統はバラバラになっているのではないかと思う。

市民（西井）

災害は来ない方がいいが、予期せぬ所で災害が起こるといろんな問題が出てくる。動物への対策で一番重要なのは飼主で、他の方は災害時には動物に構ってられない。人間の命が先なので、そこが難しい。いろんな方の知恵を拝借して対応を考えていきたい。

座長

災害時は、動物はどういう状態になるのか。

獣医師会（西間）

ネット上では犬猫が全部山の方に逃げたなどの情報があるが、それが本当かどうかは分からない。熊本では外飼いの動物が多く、猫はすぐに逃げているが、預かった犬は飼主以外にはなかなか他人に触らせてくれず、治療がやりにくかった。獣医師会連合会から3,000万円分の治療クーポンを飼主に配布した。熊本の場合、獣医師会館は大きな被害を受けて、会員も被害を受け、4月だったため、役員が変更したばかりで指揮系統が難しかった。しかし東日本や神戸の獣医師会の会長など被災の経験のある人が入って意見をくれたので、何とかできた。シミュレーションにどこまで予算が取れるか。訓練をしておかないといきなりはできない。

動物愛護団体（光武）

3月6日からスリランカにいて、災害ではないがスリランカ内で暴動が起きて国家非常事態宣言が出て、街中に兵士が銃をもって立っている状況を経験した。災害とは比べられないが、人間の命が先という事例がでてくる。人の命を助けられて、そこにペットを助ける余力があるかどうかでペットを守れるかどうか決まると思う。街中が暴動になれば避難場所もないし、自分の家に鍵掛けてとどまるしかない。災害とは違うが、大きな津波や地震となれば人命優先となるので、ペットを助けられる一定のレベルを想定してシミュレーションをしないと、それ以上のものが来た時にどうなるかを考えても役に立たないと思う。

市民（宮前）

12月初め頃に熊本の被災地に視察に行き、避難所になったホテルの支配人に話を伺う機会があった。初めは避難者が多く押しかけてきてどうにもならなかったのが、行政と話したが、行政はああしろ、こうしろと言うことだけしかできない。ところが自治会長や町内会長はだいたい町内の方は顔見知りなので、うちの町内ではこういうふうにしようと話し合いができた。ペットを連れてきた方は最初ホテルの部屋に入ったが、人と動物が一緒に生活はできないとなったので、支配人と地域の代表を集めて会議をして、動物と一緒に入れる部屋を2部屋作って、入りきれない方は車中泊をして、2、3日ごとにホテルと車で入れ替わって対応したら、非常に喜ばれた。中には犬猫でもおびえて夜寝ないものもいて、そういう方たちは車で過ごしたそうだ。一番災害時に役に立つのは地域の連携と言われていた。いくら上から指示をしても人は動かない。ホテルの浴室やトイレも始めは使い放しでひどい状況だったが、地域の役員が見て回って、婦人会、地域のボランティアを集めて話しあって手分けして掃除などをすると、皆さんが協力してくれてとても気持ちのいい避難所になったと聞いている。

われわれが聞くだけではだめで、地域の世話をする立場なので、ホテルの支配人を呼んで、3月初めに黒崎のひびしんホールで自治会の役員の方たち300人に向けて講演してもらった。皆さんからは「地域の連携は大事だ」とか、「役員は順番が回ってきたからや

るというのんびりした気持ちでは今後やっていけない」など感想をいただいた。自治会連合会としてこの講演は役に立ったと思う。

～日頃からの備えについて～

動物愛護団体（中山）

災害の規模によると思うが、市の一部の被害であれば他の地域の方に預かってもらうとかができるが、市全域が被災した場合はどうしようかと思っている。人間が一番だが、犬を連れて逃げた場合、町内の方は自分が犬を飼っているのを知っているし、犬にも声を掛けてくれるので受入れてもらえると思うが、それを知らない人にはどうしようかと。避難所にペットスペースがあるのであれば、飼育頭数分のケージを用意して、熊本では水が喜ばれたと聞いているので、持ち出せれば水も準備しておこうと思っている。

座長

平成30年度には市でペットも連れた避難訓練を実施するとのことなので、地域の方も参加してどういう準備をして、どう行動を取ればいいのか少しずつ勉強しておくことが必要だと思う。

学識経験者（馬場）

ペットにどう対応するかを考えると、避難所運営マニュアルには避難所にはペットスペースを作るという事になっている。同行避難が原則とあるので、まず各避難所にスペースだけは確保していただく。しかしまだ、市の職員への共有がされてないし、市民への周知もできていないと思うので、そこをきちんとしていく。人間が第一だが、場所さえあれば、原則他は飼主の責任になるので、日頃のしつけやケージの準備など通常の事が大事。私も愛護センターから犬を譲渡してもらい、しつけ教室も受けたが、避難所で他の犬と仲良くできるかと言われると多分無理だと思う。その辺は自分を含めて飼主が意識して日頃のしつけ、最低限避妊手術をしておかないといけない。また周知は重要だと思う。

座長

ペットの避難スペースはどのようになるのか。ケージに入っている人も人が寝るところとは別になるのか。

助言者（村江）

北九州市立大学であれば、788人受入を想定しているが、人が避難するのは体育館だと考えると、ペットは雨風をしのげる軒下。北九大は広いので可能だが、市民センターは避難所になっているが、どこにペットスペースがあるかと考えると難しい。小学校では踊り場などが使えると思うが、なかなか場所を確保するのは難しい。ケージに入っている人も基本は人とは別のスペースになる。

広さに余裕があれば、幼い子供を連れた方の避難場所と通常の避難場所。ペットを同行されている方の避難場所を作るのもいいかもしれない。先ほどから言われているように災害の規模にもよると思う。

動物愛護団体（西原）

被災地で活動した方から、住み分けと動線分離を基本考えることが望ましいと聞いている。全ての条件が合う場所はないので、いかに1つでも条件に合うか、住み分けや動線分離を飼い主と避難所運営者が相談しながら作っていくことが大事だと言われていた。

市民（松永）

自分は猫を3匹飼っているのですが、災害が起きたら猫を置いては避難できない。避難所でペットを受入れる体制を整えてくれているのは嬉しい。こちらも災害時には対応できるように普段から準備をしておきたい。

市民（原田）

目の見えない犬を飼っていた時に、火事になったらどうしようと不安になった覚えがある。今は避難所で行政が体制を取っているというのは安心した。自分も愛護センターからもらった犬がいるが、避難所にペットスペースがあっても犬が怖がりなので一人ではられないのではないかと思う。自分の犬からどうやってしつけたらいいか考えている。この会でいろんな話が聞けてよかった。

動物愛護団体（西原）

市内でも50頭以上動物を飼育している方、団体を数名把握しているが、そういった方達は災害時にどうするつもりか。

動物愛護団体（光武）

それについては私の団体でも考えていて、今現在会全体で犬が20頭以上、猫はそれ以上いる。私の所だけでも犬3頭、猫が8頭いるが、少なくともその犬猫については対応を考えているが、数10頭以上飼われている方はどうするか。現実的には、平常時でも多頭飼育されている方が亡くなったり、病気になったりしてお手上げになっている所もあり、それすら解決するには長い時間がかかる。平時でもそういった状況があり、動物愛護センターでも受け入れられない状況で、そこに根本的な問題があり、災害になると即パニックになる。災害時のことを考えるというよりも、平時に今存在する問題をスムーズに解決できる流れを作っておく事が一番大事だと思う。

災害対策啓発パンフレットには狂犬病注射をして、鑑札、迷子札をつけてとなっているが、自分の周りでそれを守っている方は非常に少ない。特に室内飼いでいる動物など。自分の所の犬猫はワクチン、鑑札等は付けているが、そこら辺から行政の指導をしておかないと災害時にどうこうという議論はその先にある気がする。

動物愛護センター

生後90日以上の子犬には鑑札と注射済票を付けなければならない義務がある。しかし、付けてない人が多すぎるが、登録をしていない方、注射をしていない方もいるのでそちらを先に優先的に指導しなければならない。狂犬病予防法が古い法律なので、実情に合っていないところもあるかもしれないが、鑑札や注射済票を付けていない方にも指導は継続して行っていく。

獣医師会（西間）

病院にくる動物でも首輪をしている動物自体が少ない。狂犬病予防法は犬のみ対象で猫には適用できないので、一番いいのはマイクロチップだが、1頭当たり7~8,000円の費用がかかるので、法制化しようという動きもあるが、現時点では海外に持ち出す時や国内に入ってくる時には必ず装着するようになっている。個体識別をするいい方法がなかなかない状態である。

動物愛護団体（光武）

狂犬病注射をしていない犬を動物病院に連れて行っても何も言われませんが、指導はしているのか。

獣医師会（西間）

会員にはコンプライアンスで狂犬病予防注射を打ってない人には注射をするように推奨しているが、全国的に半数は打っていないのが現状。行政も半数に向けて裁判を起こせない。幸いに世界で6カ国だけ狂犬病が発生していない国があり、その中に日本が入っている。6カ国以外では狂犬病が発生している。そういう意味では、日本が安全すぎる。40年発生していないので、皆が安心しきって打たないところがある。注射を推奨することを会員に指導しているが、進んでいない。

動物愛護団体（光武）

何年か前にフィリピンで犬に咬まれた人が、帰国後日本で発症して亡くなった事例があり、国内で発生していないとは言えないのではないかな。

保健衛生課

原因はフィリピンで咬まれたことなので、日本は清浄国として厚労省も謳っている。そのため、検疫などを強化している。昔から狂犬病注射をするように指導はしているが、打たない方もいる。日本が狂犬病清浄国であるため、何のために狂犬病予防注射を打つのか、鑑札を着ける必要性を行政が強く言えない部分もあったが、今回、ペットの避難が取りあげられた時に、迷子の犬猫が問題になり飼い主が探しているという状況があり、マイクロチップが一番いいかもしれないが、犬は鑑札、猫は迷子札の必要性が認識されてきている。

行政が対応できない時に、地域の方、ボランティアの方、獣医師会などが動物に目を向けて、災害に見舞われたペットを助ける事が、飼主を助けることになる。そこをどうやって行政と市民の方々が協力してやっていくか。皆さんから課題をいただきたい。

獣医師会（西間）

今の動物愛護センターは、海のすぐそばにあり埋立地ということで、大きな地震などが来ると液状化して水没する可能性もある。そうなった時の第2の司令塔を作るために場所を確保した方がいいのではないかな。

保健衛生課

新しい建物を建てるのは難しい。今のところ、獣医師会の動物病院でのペット200頭受入れをより所にしてるのが1つと、全ての避難所でのペット受入れは難しいので、体育館など大きな避難所を各区に何箇所か置ければと考えているが、まだまだの状況。センターをもう1箇所というのは避難所というだけでなく、啓発センターなど「動物に関わる施設について整備を」と議員からも言われているが、すぐに新しいセンターを作るということは難しい。今後の公共施設のあり方を考えるということが行政の大きな課題となっており、今ある施設の再利用などここ2,3年検討しており、今後も考えていきたい。

獣医師会（西間）

獣医師会館を東田に建て替えた。新日鉄の発電所があり、災害時も電源を確保できるとと、動物愛護センターとの共倒れを防ぐために、センターから離れた場所に設置した。夜間救急病院も併設しているので、同伴避難に対応できる施設として有効活用をしてほしい。

学識経験者（横山）

東北や熊本の震災時には、個人的に猫の預かり依頼が自分のところにもあった。九州各県間で災害時の協定を結んでいるということだが、遠方自治体との連携はできないのか。

市独自の方法として災害時の寄付物資や避難所運営のための想定材料にするために、犬

猫の登録や注射をさせるための規定を法律に上乗せした条例はできないか。

ペット対応避難所マップは作成できないか。災害時にそこに行けばいいと分かっていたら心持が違わないか。

地域猫は災害時には対象にはならないのか。

保健衛生課

ペット対応避難所マップについては、危機管理や消防など関係部署と調整を行っていけば作成できるのではないかと考えている。

条例に関しては、法律で既に規定されているものについて上乗せの条例は難しい。現在登録していない方には指導していく。登録すれば自分の犬が迷子になった時に管理されていることを今回の震災で認識され、登録や注射をしなければいけない意義を見出してくれればよいと思う。

地域猫は、地域の方が関わっている猫だが、まずはペットの対策から考えていくべきだと考えている。

獣医師会（西間）

広域連携に関しては、罹災証明があれば、獣医師会として、犬猫を連れて市内に避難したが、避難先で飼えない場合に、1ヶ月間無料で北九州市や福岡市の動物病院で一時預かりを実施する旨を新聞に掲載したので、そういうのを利用してもらえるとよい。ただ、猫だけが避難してきた場合はどうなるかは分からない。大きな災害が起こった場合、ほとんどの獣医師会は犬猫の預かりを無料でしている。

学識経験者（馬場）

狂犬病予防法で犬は登録と狂犬病予防注射が義務付けられているが、登録が100%にはいかない。理由として日本が狂犬病清浄国であることもあると思うが、狂犬病ウイルスが入ってくる可能性はゼロではない。ウイルスが入ってくれば、ペットにも感染する。あまり脅かしてもいけないが、正しい危険性をもっと周知してもいいと思う。狂犬病は発症したら致死率ほぼ100%の危ない病気であるが、それを知らない人も多い。最近は猫に咬まれて亡くなる事例があり、稀な事例ではあるが、犬猫その他のペットからの感染症があることを周知すると、日頃の管理にも気をつけていただけるのではないか。

助言者（村江）

益城ではペット同行避難された方たちのコミュニティができ、自分の家を片付けに行く時に、他の方がその犬を見てくれるような関係を築いていていいなと思った。日頃からのつながりは大事で、散歩などで顔見知りの関係になっていれば、災害時に市民センターなどに避難する時に、ペットの認識が日頃からの取組み次第では受入れやすくなるのではないかと、熊本の事例を見たときに感じた。

座長

課題は山積みで、施設に多頭飼いしている動物が被災した場合はどうなるかという問題はありますが、最後は日常的な飼主とペット、地域住民の関係性がすごく重要になってくると思う。

～閉会～

座長

長時間に渡り熱心な発言をしていただき感謝する。今回もとても有意義な議論ができた

のではないかと思います。今回の意見を対策に反映していただきよりよい対策を取っていただければと思う。

事務局

長時間に渡る意見交換をしていただき、誠に感謝している。

本日いただいた意見については、持ち帰らせていただき、今後の事業の参考にさせていただく。次回の懇話会は来年度となるが、あらためて連絡させていただく。